



《発行者》

医療法人畏敬会 井野辺府内クリニック  
院長：井野邊 義人  
大分県大分市府内町1丁目3-23  
TEL:097-533-0255 FAX:097-533-1370  
http://www.inobe.or.jp/  
2018年1月1日発行

新年のご挨拶

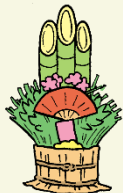
井野辺府内クリニック

院長 井野邊 義人



新年あけましておめでと  
うございます。

昨年は北朝鮮のミサイル  
実験やIS等による中東  
の内戦による大混乱もあ  
り、平和が当たり前と  
思っていたこの時代でも戦  
争が現実になる可能性が  
あることを強く認識した  
一年でした。ISによる動  
乱は次第に沈静化しまし  
たが、難民問題という大  
きな課題をヨーロッパに  
突きつけた形になり、国  
家とはいったい何なのかと  
いうことを、現在、当たり  
前の様に推進されている  
グローバリズムのなかで  
改めて考え直す時期に來  
ているのではないかと思  
われます。



さて、昨年は私も畏敬会  
にとっては充実したよい一年  
であったと思います。府内の各  
部署においても、各々目標を  
立て、それに向かって、いろ  
ろなアプローチをし、着実に  
成果を出すことができました。  
あまり浮き足立つこともなく  
地に足を付けた活動ができた  
結果ではないでしょうか。また、  
私たちの目指している連携の  
取れた組織、情報の共有化と  
いうことに対して、熱心に取り  
組んでいる姿にも多く触れる  
ことができました。必ず近い  
将来、さらなる大きな成果が  
表れるのではないかと確信し  
ております。

今年には診療報酬の医療介護  
の同時改定が行われます。病  
院の70-80%は赤字といわ  
れる病院経営難の時代ですが、  
財政の逼迫した中では、バラ  
色の改定はあり得ないでしょ  
う。しかし、そのような状況下  
でも営利だけを追求するの  
ではなく、私たち畏敬会に求  
められていること、私たちのや  
るべきことをしっかりと定めて、  
忠実に、粘り強く、皆で一致  
団結して医療、介護、またそ  
れを達成する組織作りに従事  
していきたいと思っております。

学会発表を振り返って

放射線科 診療放射線技師  
(胃がん検診専門技師)



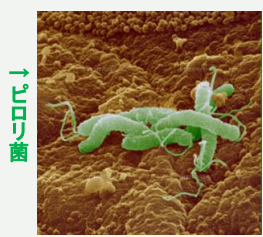
東隆一郎



新春のお慶びを心より申し上げ  
ます。

昨年八月に**日本人間ドック学会**が  
埼玉県大宮市で開催され、上部消  
化管部門において発表を担当し  
ました。テーマは「**ピロリ菌感染診  
断における背景胃粘膜X線診断の  
有用性**」でした。言い換えますと、  
胃バリウム検査の画像診断からピ  
ロリ菌感染診断に繋げる試みです。  
近年、この診断方法を導入する施  
設が増加しています。関連の研修会  
や学会等での研究テーマを学ぶ機  
会が多くなりました。

当施設も、二年前からこの診断方  
法を開始しました。



→ピロリ菌

バリウム検査でピロリ菌感染が分  
かるのだろうかと思う方も多いと  
思います。感染に  
よって胃粘膜表  
面は萎縮を生じ、  
平滑な状態から  
粗造(ザラザラ  
した状態)に変  
化して行きます。  
粘膜皺も細くなだらかな走行から、  
太く屈曲(かき状)に変化します。こ  
の胃粘膜の状態が、バリウム画像に  
写し出されます。

しかし胃の状態や形態によって、  
バリウムの付着は左右されやす  
く、画像読影には困難な要素も  
有ります。また胃粘膜萎縮の原  
因には、ピロリ菌感染以外にも考  
えられるため、感染の確定には  
ピロリ菌検査と胃内視鏡検査が  
必要となります。当施設におい  
て、この診断開始から一年間の  
データを調査した結果、陽性の  
的中率は90%という高い成果  
が得られました。

この結果から、  
診断方法に信  
頼性があり有  
用であると考  
えます。  
今回の発表  
に際して、多  
くの事を学び  
ました。放射  
線科は胃バリウム検査及び画像  
読影において重要な役割を担っ  
ています。ピロリ菌感染を早期に  
発見することは、胃がんリスク  
の低減にも繋がります。これか  
ら、放射線科としてこの診断  
方法に貢献出来るよう努力して  
参ります。



→ピロリ菌感染胃画像

住み慣れた自宅での生活再開を目指して



介護老人保健施設ふない

支援相談員

富山 健一



当施設では、介護を必要とする高齢者の自立を支援し、家庭への復帰を目指すために、医師による医学的管理の下、日々のケアと合わせて専門職によるリハビリテーションに力を入れています。

施設の特徴としては、

入所後3ヶ月間は最低週5日のリハビリテーションを受けられる。

大分市中心部にあり、交通の便が良い。

医療機関が併設しており、万が一の入院も可能で安心。

定員18名と小規模であり、明るい家庭的な雰囲気のもと地域や家庭との結びつきを重視しケアに当たっています。

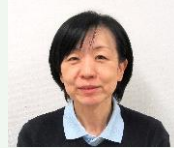
また、余暇活動にも力を入れており、日々のレクリエーション活動を初め、創作活動、音楽療法や屋内外での施設催事等、心身のリフレッシュを行いながら楽しく安心して生活できるように工夫しています。

スタッフが感じた1年

いのべ訪問介護ステーション

サービス提供責任者

児玉美希



平成29年に、私の印象に残った出来事ベスト3を報告します。

★第1位

夜間・深夜対応が可能となった！

★第2位

医療的ケアができるようになった！

★第3位

看護師や作業療法士が入職した！

この3つが出来るようになり、24時間365日いつでも幅広い視点をもつて関われるようになりました。また、利用者様の「自宅で最後まで生活したい」を実現する第1歩の年になったように感じます。

今年はずっと利用者様の想いを叶えられる1年にしたいと考えています。



認知症予防について

厚生労働省の発表によると、2025年には65歳以上の高齢者のうち認知症の人は約700万人(5人に1人)に増加すると予測されています。

認知症で大切なのは発症後の治療ではなく発症前の予防です。血液検査でアルツハイマー病の前段階である軽度認知障害の状態がわかります。そのまま過すと、約5年でおよそその半数以上が認知症に進行するといわれています。

認知症の発症を防ぎ遅らせるためにできること

喫煙、過度の飲酒は控える。

ウォーキングなどの有酸素運動を積極的に行う。

バランスのよい健康的な食生活を心がける。



★当院健診センターで、MCI(軽度認知障害)の血液検査ができます。  
★料金は2万1600円(税込み)です。

ご希望の方は気軽に お問い合わせください。

097(513)5339

